

びわこネイチャーゲーム通信

2008年9月発行

発行責任者： 辻田 良雄

TEL & f a x : 0 7 7 - 5 7 9 - 6 6 5 9 メールアドレス: muamua@ex.biwa.ne.jp

滋賀県ネイチャーゲーム協会

ホームページ : <http://homepage2.nifty.com/shiga-naturegame/> (担当 : 近成)

事務局メールアドレス : shiga_naturegame@yahoo.co.jp (担当 : 近野)

S N G - n e t : SNG-net-owner@yahoogroups.jp (担当 : 近成)

第四回 “ピノッキオ” 無事終わる。 自然と参加者との橋渡し

報告：藤野 充樹

今年で第4回目を数える自然学校“ピノッキオ”が無事に開催されました。参加者 20名(5家族13名と友人グループ7名)スタッフ3名(辻田、近成、藤野)で行ないました。その内の3家族の方は去年からのリピーターで、近年広報の成果もあってか、20名ぐらいは常時集まるようになってきました。(スタッフ人数の関係でこれ以上の参加はお断りしました)今回は、天候も良く施設隣の安曇川で初めて川遊びが出来ました。また森林組合の方にご協力いただき、間伐体験も初めてプログラムに入れさせていただきました。その他、ネイチャーゲームは勿論、毎年恒例のナイトハイク、よし笛作りや凧(ダイヤカイト)作りなど、プログラムが多彩でスタッフ側は大変だったのですが、充実した内容になったと思います。



参加者の感想からも、すべてのプログラムが良かったとの声も聞かせていただき、特に川遊びは楽しかった、来年は沢登りをお願いしますと保護者の方からリクエストもいただきました(是非来年は実現をしたいと思います) 保護者の方々のゆったり感、そして何よりも子ども達の笑顔に触れさせていただけるのが、スタッフとして嬉しいですね。

来年も更に充実した内容で実施したいと思いますが、リピーターが増えそうな状況をふまえて、友人同士の参加をどうするか等、募集案内の内容、プログラムの選択性など考えなければいけない部分も増えそうです。来年は5年目の節目を迎えます。内容充実はひとえにスタッフの充実にかかっていると思いますので、今後も多数のスタッフの協力をお願いしたいと思います。よろしくお祈りします。

* 報告にもありますが、多くのプログラムの中でも、川遊びが一番楽しかった と言う声が多く聞かれました。私たちもいろんな企画をして、準備をして運営をして、参加者に感動を与えたいとがんばりますが、やはり、大自然の魅力にはいくらがんばっても勝てないことを改めて実感しました。確かに、小学低学年の子どもも高学年の子どもも心から楽しそうに川と遊んでいました。そして、子どもの頃よくやりましたが、もっと楽しむために石を積み上げて水の流れを変えたりとみんなで工夫をし出しました。これってまさに、想像力をどんどん高めているのですよね。大きな子どもたちが作った流れで小さな子どもたちも遊んでいました。こういう姿を見ていて、私たちの役目ってなんなのかと強く考えさせられました。自然と参加者との橋渡しになっていくことが私たちの役目なのではないかと。そうすれば、私たちのやることはこれからもっともっと重要になってくると思います。



園外保育に役立つ！！

キッズネイチャーゲームと 竹ごはんに挑戦！！

園外保育にネイチャーゲームを取り入れることによって、子どもと自然との距離がグッと縮まります。そんな活動を一緒に学んでみませんか？！

指導員でない方にぜひお勧めください。幼児を対象とした活動を考えておられる指導員の方も参加してくださいね。

日時：平成20年11月9日（日）

午前9時30分～12時30分

場所：河辺いきものの森（東近江市）

内容； ① 竹を切って飯ごうの代わりにし、炊き込みご飯を作ります。

② ネイチャーゲームの体験

・木の鼓動・フィールドビンゴ（独自版）・動物ジェスチャー

③ 講義 ネイチャーゲーム 安全対策

参加費：700円（当日集めます。）

服装・持ち物：長袖 長ズボン 帽子（黒っぽい服装は避ける）

タオル 飲み物 虫よけか虫さされの薬 雨具（心配なとき）

申込先：FAXでお願いします。

FAX 0749-35-5517（愛里保育園内 大辻登代子）

《むあむあのシュワッチ コーナー》「環境学習にNGとPA」

・前回、「カメラゲーム」というアクティビティを通して、PA（プロジェクトアドベンチャー）とNG（ネイチャーゲーム）のねらいの違いについて話しました。

私のNGの活動にも、PAのねらいを取り入れています。PAには、クモの巣をみんなでも触らずに通り返っていくことや一人では上がれない高い壁をみんなの力で乗り越えていく活動があります。これらの活動も当然段階があり、お互いの信頼感を高めていき、そしてその集団の力で難題を解決していこうというプログラムです。一つひとつみんなが難題を解決した後は気持ちが高ぶっていき、最大の難題をクリアした時の高揚感涙がにじんできます。ただ、こういったプログラムを進めていくとき、目標を設定して、終われば振り返りをしっかりと持ちます。課題を解決していくときもみんなでああだ、こうだと話し合いながら解決していきます。

こういった進め方をぜひ環境学習にも取り入れたいのです。今言われている環境問題は本当に難問ばかりです。一人一人の力ではどうにもならないところに来てしまっています。そこでこのPAの考え方が大切なのではないでしょうか。一人ひとりの力では小さくても多くの人がお互いを信頼し合って集団の力で解決していこうという力を育てていきたいです。NGにもこういった力が育つことはやっています。それ以上にこういったことも強く意識したいのです。

*PAのエLEMENTも設置されて、滋賀県でPAを押し進めてきた荒神山少年自然の家の縮小か閉鎖の話の聞きまし。PAだけでなく自然体験活動ができる場所が縮小されていくことに、自然体験活動を進める私たちは大きな危機感を持ちたい。（むあむあ記）